

無上意の世界 ①

250123

(株)タニサケ会長 松岡 浩 さん 講演より

「……泣き叫ぶ赤ちゃんを乗せてバスは新宿駅に向かっていました。バスが次のバス停に着いたとき、後方から『待ってください、降ります』と若い女の人の声が聞こえてきました。子どもの泣き声がだんだん近づいてくることで、泣いている赤ちゃんを抱いている女性だと分かりました。女性がお金を払おうとしますと、運転手さんは『目的地はここですか』と聞きました。その女性は『新宿駅まで行きたいのですが、子どもが泣くのでここで降ります』と言いました。すると運転手さんは『ここから新宿駅まで歩いていくのは大変です。目的地まで乗って行ってください』と言いました。

そしてマイクのスイッチを入れ、『皆さん、この若いお母さんは、赤ちゃんが泣いて皆さんにご迷惑がかかるのでここで降りると言っています。子どもは小さいときは泣きます。赤ちゃんは泣くのが仕事です。どうぞ皆さん、少しの時間、赤ちゃんとお母さんを一緒に乗せて行ってくださいませんか』と言いました。

ほんの数秒後に1人の乗客の拍手につられてバスの乗客全員の拍手が返事となったのです。若いお母さんは何度も何度も頭を下げていました」

とある新聞の投稿です。これが「無上意の世界」です。自分の中の無上意を探し求めて歩いていこうではありませんか。

(日本講演新聞 ??年12月16日号より)

無上意とは、人からにじみ出る 本当の優しさや温かみという人間味
人は大それた行為や金のかかった大きな仕掛けに感動し、感激するのではない
誰もが少し努力すればできる笑顔や思いやりや気遣いを
「ここまでやるか」と見せられたとき 感動し、感激する